

平成30年 1月4日

平成30年年頭挨拶（要旨）

三菱ケミカル物流株式会社
代表取締役社長 福田 信夫

新年あけましておめでとうございます。平成30年の年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。年末年始、比較的穏やかな天気恵まれ、皆さんご家族、ご友人の方とゆっくりとした年末年始を迎えられ、英気を養われたことと思います。

- 当社を取り巻く環境についてですが、北朝鮮や中東といった地政学リスク、あるいは保護主義的な動きがあるものの、日本経済は今年1年、堅調に進むと予想されております。化学業界についても、同様に良い状況にあると予想しております。
- 「“安全”“コンプライアンス”の徹底」についてももう一度お願いをしたいと思います。当社の経営方針のトップに掲げられている「安全・コンプライアンスの徹底」は、日頃申し上げております通り、企業活動の根幹にあたります。ぜひもう一度全従業員がしっかりと遵守していただきたいと思っております。
- 今年の当社の事業についてですが、主要荷主である三菱ケミカルホールディングス（以下「MCHC」）グループの経営も今年1年堅調な業績が予想されております。MCHCグループの順調な荷動きを、しっかりと物流の側面から支えていくことに注力したいと考えております。一方、昨年4月に発足しました三菱ケミカル社については、今後の方針の1つである物流基盤の合理化、最適化について実行に移されていく1年になります。今後、三菱ケミカル社の物流機能の統合や業務の請負について、一つひとつ検討を重ねて着実に実行していきたいと考えております。
- 海外では大陽日酸社ベトナム法人を主要荷主として立ち上げたベトナム新社（Vietnam Chemical Logistics Company Limited）は本格的な事業の立ち上げとなります。しっかりと日本からも新社の立ち上げ支援を行っていききたいと考えております。
- 物流環境変化への対応についてですが、日本全体での人手不足は、とりわけ物流業界や介護業界で非常に顕在化しているところです。この環境変化への対応のために、効率化を推し進めていきたいと考えております。

- 物流基盤の整備に関しては、ソフト面、ハード面両方で対策を打っていこうと思います。ソフト面については今年の10月に基幹システムである「AJIOS」の完成を迎えます。業務を継続しながらのシステムの移管作業は大変ではありますが、体制をしっかりと整備して立ち上げに備えていきたいと思っています。「AJIOS」立ち上げ後は、ポスト「AJIOS」ということで、更なる利便性の向上や効率化につなげていきたいと考えています。ハード面につきましては、従来から進めている老朽化した車両や設備の更新を計画的に行っていきたいと考えています。
- 今後の事業展開の成功のカギを握るのは、働き方改革であると考えています。昨年は取組み初年度ということもあり、ITツールの活用や会議や資料の簡素化・見直しといった比較的手を付けやすいものから始めました。これらについては少しずつ浸透し、成果が出てきていると感じております。今年はこれらのデスクワークの効率化を本格化し、その効率化によって生み出された時間や資金や知恵といった経営資源を、働き方改革の本丸と位置づけている現場へ投入していきたいと考えています。全員が「働き方は変えられる」との強い信念の下、働き方改革に取り組んでいただきたいと思っています。加えて、MCHCグループが掲げているKAITEKI健康経営があります。このKAITEKI健康経営は仕事のみならず、生活を含めたところで一人ひとりが明るく元気に充実した生活を送ることを目指しているところです。このKAITEKI健康経営を、働き方改革を通じてしっかりと実現していきたいと考えています。

それでは、三菱ケミカル物流グループの益々の成長と、ここにおられる皆さま、そしてご家族のご健勝を記念して平成30年の年頭ご挨拶に代えさせていただきたいと思います。どうぞ今年1年、みんな元気で力を合わせて前を向いて成長していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【平成30年1月4日（木） 10:40～11:00 三菱ケミカル物流本社会議室にて】